

## 第 3 回 世田谷区令和元年台風第 19 号に伴う浸水被害検証委員会 議事要旨

日時：令和 2 年 7 月 16 日（木曜日） 15 時から 17 時

場所：世田谷区役所 二子玉川庁舎 玉川区民会館 集会室 A

## 議事要旨：

## 【浸水被害発生のメカニズム（シミュレーション）】

## &lt;上野毛・野毛地区&gt;

(委員)

- ・浸水要因として、多摩川の水位上昇に伴う多摩川への排水不良による内水と記載されているが、排水能力を超える雨量があったからではないのか。

(事務局)

- ・降雨は時間 31 ミリと、そこまで強い雨ではなく、シミュレーション上、水門閉鎖前に流量が落ち込んでおり、多摩川の水位上昇に伴って、堤内地に降った雨が吐きにくくなり、浸水が始まっている。

(委員)

- ・河川水位について、観測値と解析値を比較しているが、ナッシュ係数等、定量的な根拠を併記した方が良い。

## &lt;玉堤地区&gt;

(委員)

- ・水門閉鎖により多摩川に排出されなかった量や、丸子川下流から流出した量についても提示して欲しい。

(事務局)

- ・流入した雨量としては、等々力排水樋門全開による逆流量、谷沢川から溢れた量、等々力・上沼部に降った雨で多摩川に排出されなかった量が全体量となるが、現在、精査中である。

(委員)

- ・水門閉鎖前から上沼部で内水氾濫が始まっているが、これも多摩川の水位上昇に伴い、内水が滞留したということなのか。

(事務局)

- ・基本的にそういうことであり、等々力と上沼部が水路等で繋がっているため、地形的に低い上沼部に雨水が集まっている。

(事務局)

- ・国際学生寮の観測データについて、シミュレーションの解析値と若干のずれがあるため、等々力排水樋門の逆流を表現する上で、各委員が持っている観測情報をもとにもう少し検討した方が良い。

(委員)

- ・等々力排水樋門からの逆流量が少ない印象があり、シミュレーション上、各マンホールがモデル化されているのか、実現象との整合はどうか、短時間で詰めるのは難しいが、もう少し細かいところを確認したい。住民の方が見た実現象と、感覚的にある程度合っていないとシミュレーションは大丈夫かということになり兼ねないことを心配している。

(事務局)

- ・シミュレーション上、各マンホールもモデル化している。シミュレーションの内容は別途確認していただく。

(委員)

- ・等々力排水樋門の流量について、逆流から順流になった時間帯があるが、これはどういうことなのか。

(事務局)

- ・多摩川の水位と堤内地の水位で変化しており、シミュレーション上、堤内地の水位がわずかに多摩川の水位を上回る時間帯がある。堤内地の水位の上昇は、少し強い雨が降ったり、谷沢川が越水したりの影響である。

#### 【提言に向けて】

(委員)

- ・浸水被害軽減策の中で、水門操作態勢の強化とあるが、具体的には何か。

(事務局)

- ・今年度から各水門に職員を配置し、現場を確認しながら確実に水門操作が行えるよう体制を強化している。

(委員)

- ・特に玉堤地区は、区境が複雑なため、大田区と世田谷区とで連携して水防活動が行えるよう、水門操作状況などの情報交換を密に行うこととした。

(委員)

- ・上沼部排水樋門の排水活動については、排水ポンプ車を堤防の上に配置し、継続的に排水活動が行えるよう警察と協議しており、最大限、内水を排除していきたい。

(委員)

- ・排水ポンプ車による排水活動については、行政職員の命を守ることも必要なため、排水作業を行う状況や作業を止めるタイミングを予め決めておくことも大事である。

(委員)

- ・提言は、短期なのか、中長期なのか、どういう考えなのか。

(事務局)

- ・短期でできる対策は実施してきており、中長期の対策も組み合わせたく、中長期の対策も検討していきたいと考えている。

(委員)

- ・大田区と世田谷区は連携しているが、流域で考えると、流域上流との連携として、国や東京都等と連携する必要がある。

(委員)

- ・行政で全ての対応を行う姿勢も大事だが、行政だけで区民の安全や財産を守るにも限界があるため、住民とも連携して対策を考える必要がある。

(委員)

- ・河川の対策だけでは浸水被害が防げないため、流域治水を打ち出し、流域の住民と知恵を絞って対策を考える動きがある。区としてできる対策を打ち出し、地元の方々に浸水が起こることを意識してもらい、避難方策を検討することが一番大事である。

(委員)

- ・地区の特性を踏まえ、この地区に特化した避難勧告等のあり方や浸水被害軽減策を提言としてまとめることはできないか。

(委員)

- ・東京都市大学として、玉堤地区でアンケートを実施しており、その意見の中で、世田谷区全体の情報ではなく、地区限定の氾濫情報などが入手できた方が避難に繋がるという意見が多かった。
- ・台風当日、区のホームページがダウンしていたため、災害に強い媒体や複数の形での情報発信を行うことが大事である。

(委員)

- ・ホームページへのアクセス集中により動かなくなった現象については、すでに解消している。

(委員)

- ・地形特性として、水が集まりやすく、浸水しやすいことをしっかり周知し、早めに逃げていただく必要がある。行政にできることも限界があるため、自助・共助も提言の内容に盛り込んだ方が良い。

(委員)

- ・区一律ではなく、特有箇所を重点的に対応することは賛成である。下水道に水位計を設置し、水位上昇とともにサイレンやパトランプで知らせたり、いよいよ危ないとなるとその場所だけに知らせたりという取組みを実施している自治体もある。

以 上